

## 環境マイスター



環境への配慮は大切とわかっているが、どう実践すればいいのか。環境への負荷を小さくする商品を購入して購入する「グリーンコンシューマー(緑の消費者)」の視点で買物をする

でも可能になる。例えば、梅雨や夏に向けてのエアコンや冷蔵庫など家電製品の購入で、消費者の相談に応じる「環境マイスター」も一部の店で登場した。(樽本安友)



液晶テレビの買い替えを考える客にアドバイスする環境マイスターの赤在さん(左)(和歌山県海南市で)

## 買い物通しエコ貢献

「少し値段が高いと思っただが、長い目で見ると環境にも家計にも優しいので、とても満足しています」  
和歌山市の主婦45歳は昨年、8年間使ってきた洗濯機を買い替えた。最新の乾燥機能付きのドラム式。これまでもより洗浄力がアップし、少ない水でもきれいに仕上がる。洗濯時間も短縮され、消費電力で比較すると7割の削減になるという。電気代、水道代を含めると月数千円の節約になった。

こうした買物をする人を

グリーンコンシューマーと呼ぶ。1980年代後半に欧州から広まった考え方で、日常的な買物という行為を通じて、資源やエネルギーを大量に消費する生活から、環境に配慮した生活へと変えることを試みる。

具体的には、必要なもののみ必要なだけ買う▽エネルギー消費の少ないものを選ぶ▽長く使用できるものを選ぶ▽包装の少ないものを選ぶ▽など

だが挙げられる。家電製品や車などエネルギー消費やCO<sub>2</sub>排出量が多く、環境への負荷が大きい消費財ほど、グリーンコンシューマーの視点で効果的だ。しかし、買う側に専門的な知識がないために、どの商品が環境への負荷が小さいのかわからないこともある。

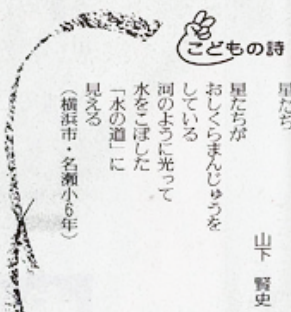
そんな場合、消費者に適切にアドバイスできる人を「環境マイスター」として養成し、2005年度から取り組み、これまで和歌山、山形、大分の3県で補助金を受けて養成講座を開いた。専門家が、地球温暖化の現状や省エネ家電などの具体的な知識や推奨ポイントなどを伝授し、約530人がマイスターに認定されている。

和歌山県海南市にある電器店の店長で「環境マイスター」の赤在依美さん46歳を訪ねてみた。赤在さんは店頭で、家

ているのが、京都市のNPO法人「環境市民」だ。マイスターはドイツ語で職人の親方という意味がある。

電の省エネ性能をシミュレーションした「省エネラベル」のチェックを客に勧めるが、それだけではない。

「例えば、冷蔵庫にはモノを詰め込みすぎないなど、どう使えばより省エネ効果が上がるのかを紹介している。電気はこまめに消すなど暮らしの中で環境のためにできることも提案し、エコライフの楽しさを広めていきたい」と話している。



星たち  
星たちが  
おしくらまんじゅうを  
している  
河のように光って  
水をこぼした  
一本の道に  
見える  
(横浜市・名瀬小6年)

山下 賢史  
静れわたった夜空に流れる  
天の川。たくさんの星たちの  
光がしずくのようにこぼれ  
て、降ってくる。(長田 弘)